

APEC「女性と経済サミット」におけるクリントン国務長官講演

2011 年 9 月 16 日

(内閣府仮訳)

おはようございます。おはようございます。(拍手)

みなさん、おはようございます。ありがとうございます。どうもありがとうございます。本日、みなさんにお会いできて光栄です。この会議について報告を受けていましたが、本日、参加できたこと、そして、この「女性と経済サミット」における私たちの重要な取り組みについてお話できること嬉しく思います。

話を始める前に、遅れていることをお詫びしたいと思います。本当にたくさんの方々が来てくださっています。海外から外交の要人を迎えて開催されるこのサンフランシスコ会議は、国連設立以来、最大の規模です(拍手)。ですから、全員が入室するまで、少し時間がかかって遅れています。まだ外にいる方々もいますので、入れるといいのですが。私の講演を始める前に、特別ゲストを何人かみなさんに紹介したいと思います。二人の下院議員、ゾーイ・ロフグレン氏とジャッキー・シュパイアー氏です。ご参加いただき、感謝します(拍手)。

二人の高名な市長もいらっしゃいます。エドウィン・リー市長と、夫人のアニタさんが、ご当地サンフランシスコから参加してくださいました。リー市長、どうぞ(拍手)。そして、オークランドから、ドージン・クアン市長も来てくださいました。ご参加、ありがとうございます(拍手)。そして、個人的なことになりますが、シャルロット・シュルツ前儀典長にも、感謝したいと思います(拍手)。

本サミットは終わりに近づきました。ここで我々は、APEC 史上初めて、APEC とその各参加エコノミーとして、女性の資本へのアクセス及び市場へのアクセス向上、女性の能力と技能の形成、官民両部門における女性リーダーシップの育成支援に取り組むことを確認する宣言を採択します。実は、サンフランシスコは、この宣言が採択されるにふさわしい場所です。なぜなら、国連憲章が、66 年前に、ここから 1 マイルの所にあるハーベスト・シアターで署名されたからです。実際のところ、みなさんは、APEC サミットでその重要な出来事をお祝いするため、また、新たな歴史が作られることの証人となるために、ここサンフランシスコに集まったのです。なぜなら、サンフランシスコは経済の議論をするのに相応しい場所であり、同時に、サンフランシスコは、受容的で、全ての人に機会が与えられることで有名な場所だからです。米国と米国民を代表して、みなさんと、みなさんの国を心から歓迎します。そして、みなさんがここに参加して、我々と共に重大な使命を担ってくださることを感謝します。

本サミットのオブザーバーの方々や報道関係の方々は、あるいは、我々参加当事者も、我々の主目的が、女性の権利の前進と、女性のための正義と平等の実現であると考えているかも知れませんが、確かにそれは崇高な目的はあって、私にとっても重要なことです。しかしながら、最初は少々挑戦的すぎると思われるかもしれませんが、我々の目的はもっと壮大なもので、女性だけでなく全人類を対象としたものであるべきだと私は考えます。この 21 世紀の初頭に我々が直面する大きな課題は、いかに、経済を成長させて、全ての国々の全ての人々が繁栄を共有できるようにするかということです。一人ひとりの市民が、老若男女等しく、仕事を見つけ、お金を貯蓄・消費し、

事業を行って、究極的には、神様が各自に与えてくださる人生の幸福を得る機会を、我々は拡大して行きたいのです。

これは口で言うのは簡単でシンプルなビジョンです。しかしながら、それを実現し、我々が求める経済成長を達成するためには、成長に不可欠で、将来に渡って我々のエコノミーに力を与える原動力を解放する必要があります。その成長に不可欠な原動力は、女性です。世界各地で経済モデルに軋みが生じている状況にあって、女性労働力を阻害する壁の存続を許すことはできません。なぜなら、女性の経済参加を拡大し、女性の効率と生産性を高めることによって、我々のエコノミーの競争力と成長に非常に大きな好影響がもたらされるからです。そして、全ての人がそれぞれの国の経済活動に参加する機会を得ることで、我々はもっと豊かになることができます。より多くの人々が世界 GDP の成長に貢献できるのです。ハイチやパプアニューギニアなどの諸エコノミーで生産性が上がれば、先進国と途上国間の格差は大幅に縮小するでしょう。

しかしながら、世界を変える夢は、表面的な改良では実現できません。また、率直に言えば、ここにいる我々が、それぞれ単独で取り組んでも実現は困難でしょう。夢の実現には、それとは反対に、抜本的な改革が必要で、政府の法律、政策の策定と実施のあり方、事業投資と経営のあり方、人々の市場での選択のあり方にパラダイムシフトが起きなければなりません。

今後、我々の取り組みがもたらす変化は、私の考えでは、これまで歴史の中で起こった大きな変化とは異なる性格を持っています。19 世紀には、多くの国々が農業経済から産業経済に移行し始めました。その後、その時代における発明と大量生産が、20 世紀の情報化時代と知識経済を生み、かつてないほどの技術革新と繁栄をもたらしました。

この 21 世紀の初めに、情報が境界線を越え、農民が携帯電話に依存し、遠く離れた村の子供が遠隔地学習をすることができるようになって、我々は「参加の時代」に入ったと、私は思います。この新時代には、全ての個人が、性別やその他の属性に関係なく、世界市場の一員となって貢献することができるのです。

一部の APEC エコノミーでは、この変化が長期間続いています。最近変化が起り始めたエコノミーもあります。しかし、全体として、進歩は遅すぎますし、ばらばらです。ただ、経済活動に携わる女性の数が増えて、女性の能力や技術が活かされる場が拡大したことによって、あらゆる地域で大きな成長がもたらされたことは、疑う余地がありません。シフトを効率的かつ迅速に実現しているエコノミーのパフォーマンスは、そうでないエコノミーよりも、格段に秀でています。

ですから、もし我々がこの取り組みに真剣になり、女性が労働に参加することにおいて、同時に、女性の参加のあり方についても、本当に平等を勝ち取りたいならば、女性にとって不利な構造的、社会的障害を取り除かなければなりません。私がこれを推進したいのは、それが正しいからという理由ではありません。もちろんそれは正しいことではありますが、我々の子供たちや、我々の国のために必要だという理由で、推し進めたいのです。女性が台頭すれば、家族や国の富が増えるからです。

私の夫はよく、全ての人に参加を呼び掛けるとき、「一人として無用な人はいない」と言います。これは正しいと思います。我々がこの時代の重大な課題に取り組み、全ての国々で、組織的に、懸命に経済機会を拡大しようとしているときに、一人として無用な人はいませんし、無用な性がある良いはずがないのです。

それでは事実関係を見てみましょう。女性の潜在能力解放と、経済活動への完全参画を各国で推進するためには、まず、女性がいかに成長を促進させているかを究明することから始まります。APEC の参加 21 エコノミーは、世界で最もダイナミックな成長を遂げている地域の一つです。参加 21 エコノミー全体で世界経済生産の半分以上を占めており、APEC エコノミーの 60%以上の女性が正規の労働者です。女性たちは、店舗を開設したり、事業運営や穀物の収穫、電子製品の組み立て、ソフトウェアのデザインなどの仕事をしたりしています。

エコノミスト誌は、過去 10 年間の、先進国で女性雇用が増加したことによる世界経済成長への貢献度は、中国よりも高かったと指摘しています。女性の貢献度は非常に高かったのです。また、マッキンゼーの調査によると、米国において、過去 20 年間で、全就労に占める女性の割合が 37%から 48%まで増加しており、価値ベースでは、女性はそれを遥かに上回る貢献をしています。

このように労働市場に占める女性全体の割合が漸増したことによる生産性上昇の効果は、現在の米国の GDP の約 4 分の 1、金額に換算すると 3.5 兆ドル強になります。これは、ドイツの GDP 以上、中国と日本の GDP の半分以上に匹敵します。

女性が貢献することは明らかです。そうだとすると、何が問題でしょうか。女性が既に経済成長に寄与しているのなら、我々は、なぜ考え方を大きく変える必要があるのでしょうか。市場や政策を大幅に修正しなければならないのでしょうか。そして、なぜ、このサミットで宣言を発表する必要があるのでしょうか。なぜなら、進歩したという事実があっても、それが成功であったとは言えないからです。そして、女性の経済活動参加の進歩の度合いは、エコノミーによって大きく異なるからです。法律、慣習、女性についての価値観が完全参画の妨げになっているのです。

米国においても、APEC 地域の諸エコノミーにおいても、何百万人もの女性が、依然として主流から外れたところにおり、正規の労働力として意味のある職務に就けないでいます。正規の労働力になれた女性の一部は、露骨な差別でキャリア階段の下部に留められており、法的、社会的制約が彼女らを取り囲み、女性の可能性を制限しています。また、女性が上級職に就くのを妨げるガラスの天井が存在しています。

フォーチュン 500 企業の CEO の中で女性はたった 11 人に過ぎません。3%未満です。APEC の一部の地域では女性には男性と同等の相続権がありません。ですから、女性は父親の資産や事業を相続できないのです。子供たちに市民権を与えることができない人たちもいて、その家族が家を持ったり教育を受けたりすることは難しく、居住許可を常に更新しなければならないため、就労するのが困難です。男性より多く課税される女性たちもいます。また、融資を受けられないケース、銀行口座の開設や契約書の署名、資産の購入や会社の設立、訴訟行為が、男性保護者の同意がない場合、禁止されているケースなどが、残念ながら多くあります。子供を持つ前に男性と同等の収入があっても、持った後には女性の収入が減るケースもあります。シングルマザーの場合は、収入はさらに少なくなります。

これらの障壁や制約は、あるものは制度上のもの、あるものは実質的なものですが、いずれも、女性の経済活動への完全参加能力や、被雇用者としてあるいは起業家として家計を支える能力を阻害しています。もちろん、これらの障壁は、このアジア太平洋地域だけのものではありません。これに類したものは他の地域にも見られます。しかしながら、この地域の経済活動は世界で最も活発ですから、ここで行うことは世界の他の地域にも影響を与えるのです。

一部の障壁は、新しい現実の経済を反映することや、公正の概念に基づいて見直されることのないまま、昔から変わらず残っているものです。家計を支えるために男性がより高い報酬を得るという経済秩序を温存しようという動きもあります。女性にとって危険、あるいは不健全であると見なされる労働から女性を守る必要があるという文化的思考がなかなか消えない状況もあります。

実のところ、危険なのは、強い社会を作るために必要とされる経済成長のレベルを、我々自身が認めないことです。また、不健全なことは、女性が成長にフルに貢献できる機会を与えないことです。それは、全ての人々、とりわけ家族が豊かさを享受する機会を与えないことだからです。

ここで考えなくてはいけないことは、何もしなくても、経済秩序がそのまま続くことはないということです。今の経済秩序は、経済政策立案者や政治指導者、企業経営者らによる、無数の、大小様々な意思決定の積み重ねによって、構築・再構築されたものなのです。したがって、女性の機会が改善されるのを望むなら、我々は、健全な女性に特有の制約を与えている諸課題にきちんと対応する経済政策を打ち出すことから始めなければなりません。その理由はこうです。ゴールドマン・サックスは、女性労働参加の障壁を取り除くことが、米国の GDP を 9% 成長させるというレポートを発表しています。我々の国にも障害が依然として残っていることを認めます。ユーロ圏では成長は 13% が見込まれますが、その実現が必要でしょう。そして、日本では 16% の見込みです。ジェンダーギャップを縮小して女性の可能性を解放することによって、中国、ロシア、インドネシア、フィリピン、ベトナム、韓国などを含む、いくつかの APEC エコノミーにおいて、一人当たり国民所得が 2020 年までに 14% 伸びると予測されます。

もちろん、収入の増加は消費の増加を意味します。そして、それ自体で成長が促進されるのです。ここでも女性の貢献が大きいのです。ボストンコンサルティンググループの調査で、2014 年までに、世界消費の内 15 兆ドルを女性がコントロールするようになるという結果が出ています。そして、2028 年までには、世界消費の約 3 分の 2 を女性が支配するようになる見込みです。

データをもう少し深く掘り下げてみると、女性による消費の質と、女性による貯蓄の額の両面で好ましい影響があることが分かります。その理由は、複数の研究によって、女性は自分が得た収入の比較的多くの部分を、食糧、健康管理、住宅改修、自分や子供の学習・教育のために使うことが明らかになっているからです。つまり、女性は再投資するということです。このような消費のあり方は、乗数効果があり、より多くの雇用を生み、地域経済の多様化をもたらすのです。そして、それが、市民の教育と健康の向上につながり、市場が低迷したときのクッションとなるのです。

また、同じ研究から、女性の方が男性よりも貯蓄傾向が強いことが分かりました。このデータに驚かれた女性は誰かいらっしゃいますか(笑い)。準工業国 20 ヶ国で行った調査によると、女性が得た収入が家計に占める割合が 1 パーセントポイント増えると、家計貯蓄が約 15 ペーシス・ポイント増えます。そして、貯蓄率が高くなると、税基盤が拡大します。

企業の投資、営業、採用活動において、女性をより効果的に取り込むことで得られる、生産性やコーポレートガバナンス面での利益もあります。マッキンゼーの調査で、新興市場で女性をエンパワーするための投資を行ったことで利益が上昇したと、経営幹部の 3 分の 1 が答えています。また、企業のリーダーシップにおけるジェンダー多様化の度合いが高いことと、組織パフォーマンスとの間に強い相関関係があることを示す研究結果もあります。世界銀行は、女性労働者や女性管理職に対する差別を取り除くことによって、管理職は労働者一人当たりの生産性を大きく改善し、25%ないし 40%上昇させることができるとの調査結果を発表しています。多くの国において、いくつかの部門で女性労働の障害となっている壁を減らすことで、男性労働者と女性労働者の生産性格差を、3 分の 1 ないし 50%、縮小することができます。

これらの改善が得られるのは、障壁を取り除くことで、女性が効率的に配備されて、才能や技術が活かされるようになるからです。グローバル化が進んだ今日において、このことは、競争優位を確保するために益々重要になっています。これらの事柄の全てが、「経済活動における女性の可能性を解放することで、我々の地域や国々、ひいては世界における経済パフォーマンスが向上する」という私の最も主張したいことを、浮き彫りにしています。

我々のエコノミーの農業部門を例にとり、私の言わんとすることを説明してみましょう。我々は女性が、世界の農業部門の成長で重要な役割を担っていることを知っています。農業は経済成長の力強い原動力であり、そのことは中国やインドの目を見張る発展を見れば明らかです。いくつかの APEC エコノミーでは、女性が農業労働力のほぼ半分を占めています。また、女性は、作物の種植え、家畜の世話から、収穫や市場における販売まで、また貯蔵から食するための支度に至るまで、農業産業チェーンの繋がりの全部を支えています。

しかし、現在の農業における女性の役割は、彼女らがあらゆる部分の労働に従事しているにも拘らず、それぞれの分野におけるその働きは誇らしいものではありません。女性農民は男性農民と比べて、最大 30%生産性が低い状況ですが、それは女性の働きが少ないからでも、献身度が低いからでもありません。理由はリソースへのアクセスに制約があり、男性と比べて、肥料や道具・機器の利用が限られ、得られる種の質が低いからです。また、訓練を受ける機会や、与えられた土地も少ないからです。それに加えて、家事の殆どをしなければならないので、就業時間が男性より遥かに少ないのです。活用可能なリソースの格差が縮小し、リソースが平等に、また、願わくは効率的に配分されるようになれば、農業の生産性は男女間で均等になります。それは好ましいことです。たとえばネパールでは、相続権の事情で、女性の土地保有が男性と比べて多く、深刻な体重不足の子供は少ないのです。

今、我々の前に、発展途上エコノミーの成長を促進し、同時に、世界に食糧をより多く、より安価に供給する機会が与えられています。途上国の女性を制約しているリソース格差を埋めれば、毎年、新たに世界中 1 億 5 千万人に

食糧を供給することができるようになります。これは、国連食糧農業機関、FAO の試算です。それに加えて、家計収入が上昇し、市場が効率化され農産物取引が増加するという効果もあります。

女性の起業家精神は旺盛ですから、これと同じような影響は、我々のエコノミーの他の部門でも見る事ができるでしょう。インドネシアの 50 万社以上、韓国の 40 万社近くの企業は女性によって所有されています。中国の小規模企業の 20%は女性が経営しています。アジア全体で、この地域の経済離陸で重要な役割を果たした軽工業部門の中で女性は圧倒的な位置を占めてきました。これからもそれは変わらないでしょう。女性が所有する企業は米国の全雇用の 16%を提供していますが、エコノミストたちは、これらの女性所有企業が、今後 7 年間に見込まれる新しい雇用の 3 分の 1 近くを創出すると予想しています。

これらの事実を目の前にすると、世界経済フォーラムのグローバル・ジェンダーギャップ・レポートにおいて、ジェンダーギャップと経済生産性の間の強い相関関係、つまり、前者が小さければ小さいほど、後者が高くなるということが指摘されていることは、さほど不思議なことではありません。世界経済フォーラムの会長であるクラウス・シュワブは、「国が成長し、繁栄することを望むなら、少女を含む女性は、平等に扱われなければならない」と結論付けています。我々が、今日、これから採択する宣言によって、女性の労働者、起業家、ビジネスリーダーとしての潜在能力を解き放って、ジェンダーギャップ縮小を埋めていくことができるのです。

本宣言の掲げる目標は非常に具体的です。我々は強い決意をもって、女性の資本へのアクセスを可能するよう働きかけ、それによって、女性起業家がアイデアを活かして中小規模の企業を起こし、成長や雇用拡大に貢献できるようにします。我々は、法的規制、制度を見直して改革し、女性が全ての金融サービスを利用できるようにすることを要請します。そして、そのような改革を実施することにより、女性がビジネスキャリアを築くに上で子供たちの幸福・満足を犠牲にしなくてもよくなります。

我々は、女性の市場へのアクセスを向上し、起業した人たちが経営を維持できるように支援しなければなりません。たとえば、「情報の非対称性」と呼ばれる問題を是正する必要があります。情報の非対称性というのは、女性が得られるはずのビジネス情報や技術的支援情報などを得ていないという問題です。これは、農業部門のところでお話ししたことと同じです。

我々が多くのこの種の取り組みのモデルとして活用している国務省の 2 つのプログラムがあります。「繁栄への道 (Pathways to Prosperity)」と呼ばれるプログラムは、南北アメリカの 15 ヶ国の政策立案者たちと民間部門のリーダーたちを連携させるものです。目的は、小規模な事業を営む企業所有者、農業従事者、職人の、国内事業の拡大、及び域内貿易取引を通じた事業拡大の両方を支援することです。そして、「アフリカ女性企業家プログラム (African Women's Entrepreneurship Program)」はアフリカ成長機会法 (African Growth and Opportunity Act: AGOA) 適用対象国の女性に AGOA の提供物に関連した情報や道具・機器を利用するよう働きかけるものです。

そして最後は、公共部門と民間部門の両方で、女性のリーダーシップの育成に取り組まなければなりません。それは、彼女らがこれらの課題について、体験から直接得た知識と理解力を有するからです。彼女らの視点は、障害

を取り除いて、女性があらゆる部門の経済活動に参加できるようにするための政策やプログラムを立案する際に、貴重な貢献をするからです。

これらの目標の達成に既に向かって大きな進歩を遂げている企業がいくつかあります。ゴールドマン・サックスは、「1万人の女性(Ten Thousand Women)」プログラムを通して、途上国エコノミーの次世代女性ビジネスリーダーの教育を実施しています。また、コカ・コーラは、「20年500万(Five by Twenty)」キャンペーンで、2020年までに世界中で500万人の女性起業家を支援することを目指しています。そして、丁度今週、ウォルマートがその購買力を活かして女性起業家を支援することを発表しました。同社は2016年までに、女性が所有する企業からの購買を世界中で倍増させて200億ドルにする予定です(拍手)。また、ウォルマートは、女性が職業技能を向上させるのをサポートするために1億ドル投資する計画です。この計画の対象には、ウォルマートに作物や製品を納入している海外の女性農業従事者や女性工場労働者が含まれています。

これらのプログラムはまだ始まりであって、このような企業の女性への投資のあり方の変化は、世界中で永続的なものとならなければなりません。

私は、いわゆる「参加の時代」を到来させることは簡単だとは思っていません。法律を改正するためには政治的な意志が必要です。文化や行動様式を変えるためには社会的意志が必要です。これら全てにおいて、政府、市民社会、及び、民間部門のリーダーシップが必要です。もっと多くの女性を経済活動に参加してもらい、女性の生産性を向上させるために、国が積極的な構造改革を推進したとしても、必ずしも期待した結果が得られるとは限りません。ですから、我々は継続的に関わっていかなければなりません。我々の長期計画を達成するには持続性が要求されます。

経済秩序を変えるのは難しいかも知れませんが、そして、政治戦略は、それがどれほど優れたものであっても限界があります。ですから、我々全員が、ただ障害を取り除くのではなく、その後、積極的な投資をして、関わりを持ち続ける決断をしなければなりません。今日ここにいらっしゃるみなさんはAPEC地域のリーダーです。みなさんご自身が、ここに来る決断をされたのです。みなさん自らが、女性と経済の問題を考える決心をし、そして、このサミットからメッセージが発信され、そのメッセージはAPEC地域全体に波及的に広がっていくのです。そして、リーダーと市民たちは、少女が学校に留まり、技術を身に付けることを奨励し、可能にするために必要な、数多くの様々な意思決定や決断をするのです。そして、自分と子供のために一生懸命働いて糧を得ようとしている女性に融資することの意味を、銀行が理解できるようにするために、我々が関わり続けるのです。そして、それが出来たとき、女性の「参加の時代」の到来に大きな貢献をすることになるのです。

この他にも我々が関わるべき分野はたくさんあります。医療研究費は男性のためと女性のために同等に使われるようにする必要があります。また、税制が、女性に対して、意図的に、あるいは意図したものでもなくとも、差別的にならないようにしなければなりません。さらに、女性に平等に機会が与えられ、社会において生産的で貢献できる生活を送れるようにすべきです。

ただし、我々が行っていることは、我々が求めている成果を生み出していませんから、この時期に、スケールが大きく大胆なアイデアを考え出すことが必要だと私は思います。女性が仕事に就くことができ、家庭や地域、さらには国の経済的資産にアクセスできるようになると、そこに刺激的、波及的な効果が生まれます。多くの人がここからたくさんの様々な成果を生み出すことを期待しますが、我々の目標を決めるときは、少し控えめでありたいと思います。もちろん、世界中で食糧事情が向上し、教育機会が充実し、家計が安定する家庭が増えること、そして、社会全体がその恩恵に預かることは間違いないと思います。

しかし、もし、我々が強い意志をもってそれを実現するための努力をしないなら、我々の宣言は意味のないものになってしまう。もし、人々が将来このサミットを振り返って、「あのサンフランシスコ会議にアジア太平洋地域の要人が集まって、それまで議論されていなかったことが初めて語られた」、「彼らは、女性の参加を進めるべきだ、それは正しいことだ、言うだけではなかった。彼らはよく話し合っ、宣言を採択し、関係地域の全ての人々の利益のために、障害克服に全力を尽くすことを誓った」と言うならば、私は、この会議は歴史書に記される出来事になると思います。

そして、我々は進捗状況をチェックして、我々が重きを置くところで成果を上げていることを確認する必要があります。自分たちの人生でこれを行っていますが、我々の全ての国や地域においても同じことをするのは重要なことです。サミットが終わって、我々がこの地を離れ、自国の政府、あるいは企業に戻って、いかに雇用環境を改善するか、国の債務を減らすか、お互いの国の間で貿易を拡大するかなど、様々な課題に取り組みます。その取り組みの中で、いつも念頭に置くべきことは、その課題で成果を上げるために女性がいかに貢献できるようにするために、我々がさらに何ができるかということです。もし、我々がそれを実践するならば、我々は前進すると私は確信しています。そして、我々は、何をすべきかを提起することで先頭に立つだけでなく、いかに進歩しているかを確認し、対処することで先頭に立つことになるはずで

す。みなさんが、このサンフランシスコに集まってくださったことを感謝します。我々はこれから長い道のりを共に進むのです。私が目の前に見ているのは、APEC 地域の各国を代表して集まってくださった仲間・友人です。みなさんの国は過去 50 年をかけて驚くべき進歩を遂げました。過去 30 年でも目覚ましい発展がありました。これからも時間がかかると思います。我々が協力することも必要でしょう。しかし、もし、我々が、この「参加の時代」の実現を求め、女性の経済的可能性を解放して活用するならば、我々の将来はこれまでとは異なる、明るいものになると確信しています。

2011 年 9 月 16 日、私は、米国の代表として、ここサンフランシスコにおいて、まさにこれから始まろうとしていることの、歴史的証人となることができることを光栄に思います。全ての人々のための輝かしい将来がここから始まります。ありがとうございました(拍手)。